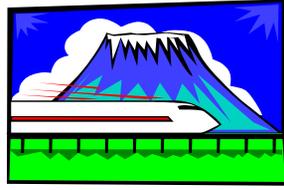


### 便利な社会の行方

●ゴールデンウィーク中、新幹線を利用して里帰りをした。私は大阪の出身である。久しぶりに乗った新幹線であったが、実は、車内で軽い衝撃を受けた。二十代の若者から年配の方まであちらこちらで携帯電話、ポータブルDVDやゲーム等を半数以上の人が使用していたのだ。すごい。十年前にはせいぜい携帯電話があったくらいで、まず見られない光景だった。時代はここまで進んだのか。これから十年後はどうなっているのか。想像もつかない。



●ところで、これらの機器はいわゆるエレクトロニクスと呼ばれるものが多大なる影響を与えている。例えば理科から電気、光、量子物理または原子物理と呼ばれる分野、数学では積分、行列等が必要である。これらは高校から大学にかけて学ぶ範囲だが、その果実としてのエレクトロニクスは、家庭で快適に生活するために必要な電化製品でも大きな役割を果たしている。

●さて、悲しいかな数学と理科は生徒から非常に嫌われている科目である。これは大問題

だ。もし理数の学力が低下すれば、先端技術の発展はその歩みが止まる。それはこれらの技術が先ほど述べたように、理数を学ばないと成り立たない分野だからである。だから、多くの人が理科、数学を学ぶことは、科学技術の発展のためには大きな意味がある。ところがそれらの分野（つまり理学部、工学部、理工学部）への進路を考える生徒は、一学年四十人いたとして中学生だとせいぜい二、三人であろうか。もちろん高校に入学してから考え出す生徒もいるので一概には言えないが、非常に少ない数である。

理工学部へ進学してもメリツトが少ないという人もいる。実験や演習が多く、自由な時間が少ないというのも一因かもしれない。



●ではこの理数離れをどうしたらよいのか。私には、決定的な方法は思いつかない。ただ、社会が、家庭が、学校が、そして塾も、生徒たちが理数に、もつともつと興味や関心を持つるように配慮を（思いつきではなく）していくことは必要であろう。もちろん、理数をメインにして授業をしている私の役目も重要であると思う。

●また、入試で理社を含めた五科目を課しているのは、大きな意味があると考える。いやいやでも、理科、数学を勉強せざるを得ないが、それは、社会全体として最低限の理科、数学の土壌を守る役割がある。人類全体から見たら、できるだけ多くの人が、一定のレベ

ルの理科、数学の知識と、それを学んだ経験を持つということが、実は相互の発展に寄与していることになるのだ（それはもちろん、他の教科についてもいえるが）。

●というわけで、私は今日も一生懸命、理数を教える。頑張ってほしいと願いつつ。

(岡本)

### しまなみ海道を往く

●現在、本州と四国を結ぶルートは三つあるが、その中でも、広島県尾道市と愛媛県今治市とを結ぶ通称「しまなみ海道」は、独特の存在感を放っている。瀬戸内に浮かぶ複数の島を計十本の橋梁(最長のもは4kmもある)で結んでいるのだが、瀬戸大橋などが自動車専用道であるのに対して、「しまなみ海道」の橋梁は生活道路として自転車が行き来できるように設計されているのだ。そのため、自転車で瀬戸内海を縦断できる唯一のルートとして大変に有名で、総距離80km走破を目指して全国から多くの人が訪れる。今回、日頃何かとメタボを指摘されている私も挑戦してきた。



●評するなら、圧巻、爽快という言葉につき。尾道の駅前から最初の向島へは船で渡り(所要時間五分)、サイクリングのスタート。海沿いの道へ出るので潮風を浴びて気持ち

良く走る。そうして、六、七km走ると、最初の因島大橋が見えてくるが、その圧倒的な巨大きさに、最初はおじけづいてしまいかもしれない。というのも橋の入り口はビルの十〜二十階相当の高さにあるため、そこまで坂道を上って行かねばならないからだ。しかし、上りきったあとには褒美として想像を超えた絶景が待っている。高みから見る瀬戸内の島々やエメラルドの色をした海の美しさには、誰しも舌を巻くこと間違いなし(私はあまりの高度に足がすくんだが……)。

●橋を渡ると、今度は地上に下って島を海沿いに走る。その繰返しなのだが、島のたざまいがとて面白い。絵に書いたような漁村の風景が広がり、ゆったりとした時間が流れる。すれ違う人々にも気軽に挨拶の言葉が口に出る、そんな雰囲気だ。今回は先を急いだ、画家平山郁夫の生家や、国宝の武器を多数納めた大山祇神社、ひよっこりひょうたん島のモデルとなった小島、塩で有名な伯方島など、見所にも事欠かない。

●休憩したり道に迷ったりして、今治に着いた頃には夕映えの時間になっていた。約八時間の自転車旅。体重は5kgも減った!その後、私はバスで尾道へ引き返したが、そのまま松山や高松を訪ねてもいいし、フェリーで関西や九州に渡ってもいい。島で宿泊して、二日かけてゆっくり走るといいうのも人気なのだそう。

●ところで、行政というと、画一的で柔軟性がないという既成概念があるが、「しまな

み」では驚くほど自転車利用者(つまり交通弱者)への配慮と工夫がなされている。橋の入り口までの坂道も無理せず上れるほど緩く設計され、場所によっては二周するループ橋が自転車だけの為にわざわざ造られている。橋梁上の自転車道の幅も道路一車線分くらいあって広い。他の二ルートに比べて大きな経済効果がそれほど望めない「しまなみ」で、自転車道にこれだけの手間と費用がかけられていることは大変な驚きであり(橋梁自体も最新の技術が使われデザインも美しく景観に配慮されている)、行政とはこんなに優しい目線を持つているものかという強い印象を受けた。



●途中で、島の高校生とすれ違う。携帯を見ながら歩いていった。彼も、海と緑しかない故郷に退屈し、刺激に満ちた都会へ出ていくことを夢見ているのだろうか。つい、かつての自分と重ねてしまう。(関)

## 夢・やりたいこと①

●彼が創学舎を巣立ってから、もう十五年になるのだろうか。Kくんでしょう。Kくんはユニークな若者だった。独特の感性を持ち、他の人への気配りもできて、礼儀正しく一緒にいると楽しかった。授業中は、いつも指示された問題を解き終えると、また別の作業を

黙々とやっていた。私には、それが勤勉な姿に見えて感動したものだ。最初の頃は。しかし、ある日、気付いた。彼は漫画を描いていたのである。ふざけていると思う方もいるであろう。実際、授業中には許してはいけないことである。以来、私は彼が解き終わるのを見極め、すぐ解説に入る。他の生徒が解き終わっていないときは、次々に課題を与え、軽い話題を振るなど、彼に漫画を描かせた。描く暇を与えないよう工夫をするようになった。「臨機応変」という言葉があるが、まさに彼によってそういう対応をする技術を身につけさせられたといってもよいだろう。

●Kくんは小さいときから漫画家になった。本当に仲良くなった人だけに打ち明けたので、それを知る人は少なかったはずだが、その夢への思いの強さは、本人も余す程だった。何か思いついたら描くというのが反射的な行為だったのだと思う。結局Kくんは、高校・大学と進学した後、就職はせず、フリーターの道を選んだ。最低限の生活費を稼ぎ、漫画を描き続けるためである。服もロボロボ、破れた靴をガムテープで止めてはく……。そんな生活を何年も続けて、ついに彼はデビューする。そして今は、中堅の漫画家として活躍している。

●さて、Kくんのことを紹介して、私は何を言いたいのか。一つは、夢のことである。平凡な夢しか持てない。否、夢が持てない人には、Kくんのことがまぶしく思えるだろう。

ドラマを見れば、「夢を持つ」と語るシーンがある。逆境に耐え、有名になった人が「大丈夫。もっと夢を持って。」と訴える。夢〇〇やりたいことと考へてもよいが、確かにこれが持てたら素晴らしいだろう。しかし、有名になるとか、芸術家になるとか、ミュージシャンになるとか決心しても、その夢にかけて実現させるには、いつ終わるか分からない苦難の道のりが待っている。運よく、街角でスカウトされて芸能界デビュー、売れっ子になるなどというのは、極めて稀なケースである。ともかくこうした夢を実現させて生きていける人達は、ほんの一握りで、まさに素質×運×思いの強さ(衝動)×誠実な努力の値次第ということになる。



●一方、夢〇〇やりたいことには、別の在り方もある。志望校を目指す。部活を頑張りたいも立派な夢である。車を買いたい、もっと広い所に住みたいも、立派である。家族の健康と子供の成長を祈り、安定した生活を続けたいも立派なのだ。

●また、他方では、夢〇〇やりたいことが見つからず、悶々とした日々を続ける人もいる。進学や運動や就職に価値を見出せず、自分の中の野性や衝動を抑えきれず、暴走族に入る人もいる。バイトに明け暮れ、お金を使って遊ぶことに燃える高校生も多い。暴走族に入る人も、バイトに夢中の高校生も、そうすることがその時はやりたいことだったのかも

しれないが、一生続けていくケースはまず見当たらない。(よぼよぼの老人の暴走族というのがいれば、応援に行くぞ、私は。)

●こうして考えてみると、夢〇〇やりたいことには、いくつかのパターンがあることが分かる。①物質的なものを手に入れること(旅行なども含む) ②自分の中の衝動や理想を作品や演技・演奏や起業という形で独自に表現していくこと ③自分の職業適性を探りながら労働することによって経済的安定を図り、社会的に貢献すること ④家族を含めた人間関係を築くこと ⑤(極度の貧困状態にあるときは)自分の生存を安定的に維持すること

●まさに、これらのいくつかは人間が共通に持っている願望といえる。今、夢〇〇やりたいことがある人は、それを大事にしよう。ない人は、何もせず悶々として生きることだけはやめて、今やるべきことを、やったほうがよいことをやろう。(以下次号)(小林(健))



### ▲▼▲継続希望の方へ▲▼▲

- ▶卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡下さい。

## 創学舎の本

### ■愛の壁■

—お父さんお母さんあなたの愛の壁に囲まっていますか—

著者：小林 憲右

2006年5月1日発行(1,500円税込)

新星堂他全国書店にて

好評発売中!